

平成30年度 血液事業概要

あゆみ

第68号 令和元年7月

目次

所長あいさつ	2
平成30年度 新聞記事	4
沿革	6
第42回日本血液事業学会総会 発表演題	13
組織体制	14
献血の概況	16
献血推進の概況	18
骨髄ドナー登録事業	21
検査・製剤の概況	22
供給の概況	24
医薬情報活動の概況	25
統計資料	26
平成30年度 表彰	32
平成30年度迄の献血記録	34

所長あいさつ



群馬県の血液事業の推進につきましては、日頃より県民の皆様、また、これを支えてくださる献血協力団体、ボランティア、県・市町村、医療機関及び関係各位の皆様にご支援ご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

また、平成30年度においても皆様のご協力のもと、県内の医療機関からの輸血用血液製剤の要請に不足することなく供給することができました。重ねて御礼申し上げます。

平成30年度は延べ85,395人（対前年比100.2%）の献血協力をいただきました。献血者を年代別に見ますと、40代が全体の30%、50代が25%と、全体の約半分を占めています。一方、10代（16歳から19歳）が7%、20代が13%と、20代以下の献血者数が全体の20%にとどまっております。

日本は少子高齢化社会にあります。これから更に少子高齢化が進む中で輸血用血液製剤を安定的に供給するためには、より多くの若年層の献血協力が必要となります。そのため、群馬県赤十字血液センターでは、県内の高等学校、短期大学、大学、専門学校及び各種学校等における献血や献血セミナーの実施だけではなく、献血予備軍である小・中学生を対象とした「親子献血教室」、「キッズ献血」を開催し、将来の献血者育成も行ってまいりました。

また、平成30年10月29日から複数回献血クラブ新会員サイト「ラブラッド」の運用を開始し、献血履歴や検査成績の照会だけでなく、献血ポイントによる特典や各種イベント情報の配信、献血ルームにおける献血予約等が可能となりました。

平成30年度における輸血用血液製剤の供給本数は、換算本数289,898本（対前年比102%）でした。前年度比は微増でしたが、複数年で見ますと医学の進歩や自己血輸血の普及等により供給本数は減少傾向にあります。また、患者さんの負担軽減や副作用発生リスクの減少のため、病院からの全血製剤の要請のうち約96%が400mL献血由来の輸

血用血液製剤です。そのため、平成30年度においても400mL献血の推進を積極的に行い、400mL献血率94.4%のご協力をいただき、おおむね医療機関からの要望に応えることができました。

輸血用血液製剤の種類の一つとして、血漿分画製剤というものがあります。血漿分画製剤には、止血を目的とした血液凝固因子製剤、熱傷などに伴う低アルブミン血症時などに用いるアルブミン製剤及び重篤な感染症などの治療に用いる免疫グロブリン製剤等がありますが、近年特に免疫グロブリン製剤の需要が増加し、その原料となる血漿の必要量が増加しています。平成29年度、群馬県に割り当てられた原料用血漿確保目標量は15,969Lでしたが、平成30年度は17,298Lと増加しています。今後も更に増加する見込みであり、群馬県赤十字血液センターでは血漿成分献血についても確実に確保できるよう努力していきたいと考えております。

今後も職員一同、なお一層の取り組みを進め、より安全な輸血用血液製剤の安定供給に向け引き続き努力してまいりますので、皆様方におかれましても、より一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ここに平成30年度の実績をとりまとめましたので、ご高覧いただければ幸いです。

平成31年 4月
群馬県赤十字血液センター
所長 丸 山 健 一

生保県協会の 献血一斉活動

本 田 生命保険協会県協会 (平田副産会長)は11日、太田市の日本生命保険太田支社で献血一斉活動を行った。市内に事業所を置く加盟7社の



社員が次々と訪れ、献血に協力した一写真。

社員らは検診医による問診や血圧測定などの後、ベッドに横になって準備。リラックスした状態で血液を提供した。

一斉献血は社会貢献活動の一環として年3回ほど実施。このほかにも献血の場を設けて年間1000人を目標に協力を呼び掛けている。

県赤十字血液センターによると、冬場はインフルエンザの流行などによる協力者の減少で血液が不足するといわれ、担当者からは「多くの人に協力してほしい」と話していた。

上毛新聞 平成31年1月12日(土)

若い仲間も 増やす

若者に献血を呼び掛けようと、県内の大学生でつくる「県学生献血推進連盟」が発足してまもなく1年。イベントのほか、若者がたっそのSNS (会員制交流サイト)にも発信発信を通じて、普及に努めた。メンバーは「もっと連盟の存在を知ってもらい、献血を促したい」と結年度に向けてさらなる目標を掲げている。

イベント、SNSで啓発

同連盟は2019年4月発足。これまで月に1回、県内各地方の大学生を主な対象とするイベントを開催。特に今年キャンペーンは「県学生献血推進連盟」が中心となり、増える。商業施設で献血イベントを実施する。また、クリスマス時期に「クイル」が企画で献。たり、クリスマス時期に血イベントを企画してき。はサンタクロースのいで。たが、より本格的に活動。たちで献血協力を呼び掛。をかけた、という思いか。けたらした。高崎経済大。る「俳優のメンバー」による。2年小林直樹さん(20)めて、連盟を組織した。は「楽しませる企画を。群馬大学高崎経済大。多くの仲間と暮らす。と。県立大学大内会。が楽しい」とやりがい。を。学生本人が登録して。感じている。

県学生献血推進連盟 結成から1年



昨年12月にクリスマスキャンペーンを行ったメンバー

1月17日、定例会開。イベントの準備は。問い合わせは。関心がある若者は。SNS (Twitter @skusud) か、県赤十字血液センター (0270-22-1111) へお問い合わせください。代表の。2019年、小川唯。県立大学大内会。

上毛新聞 平成31年2月28日(木)

池江選手が 公表後急増

白血病などの患者は骨髄末梢血幹細胞を提供するドナー登録で、2月の新規登録者数に前年の4.4倍に達する。人がなったこと。県赤十字血液センターのまとめが明らかになった。

骨髄バンクドナー登録
先月、前年の4.4倍

の登録者数は急増したが、500人を超える急増だが、同センターは「現在は更にはなつたが、それでも例年より多い。白血病の患者に輸血が必要になる場合があるため、献血の協力も引き続きお願いた。い」と話している。

日本骨髄バンクの地区普及広報委員、佐藤誠一さん(30)は高崎市で、献血車に同行してドナー登録を呼び掛ける活動を行っており、最近はその高まりを感じている。同センターの普及効果を「過性に終わらず、ドナー登録を文化として根付かせたい」と話している。

上毛新聞 平成31年3月11日(月)

骨髄バンク登録急増

池江選手の白血病公表後

「自分も誰かの役に」

県赤十字献血センターによると、県内3献血ルームのドナー登録は今日(11)の0時より2人の割合で、池江選手が公表した翌日には15人、14日は17人に急増。問い合わせも増えている。

造血幹細胞移植を受ける可能性が高まり、関係者は支援の広がりを歓迎する。一方で、実際に提供する場合は入院や通院が必要になるなどの負担があり、課題の理解や支援が必要だ。

造血幹細胞移植を受ける可能性が高まり、関係者は支援の広がりを歓迎する。一方で、実際に提供する場合は入院や通院が必要になるなどの負担があり、課題の理解や支援が必要だ。

造血幹細胞移植を受ける可能性が高まり、関係者は支援の広がりを歓迎する。一方で、実際に提供する場合は入院や通院が必要になるなどの負担があり、課題の理解や支援が必要だ。

造血幹細胞移植を受ける可能性が高まり、関係者は支援の広がりを歓迎する。一方で、実際に提供する場合は入院や通院が必要になるなどの負担があり、課題の理解や支援が必要だ。

造血幹細胞移植を受ける可能性が高まり、関係者は支援の広がりを歓迎する。一方で、実際に提供する場合は入院や通院が必要になるなどの負担があり、課題の理解や支援が必要だ。

上毛新聞 平成31年2月16日(土)

沿革

●1962年（昭和37年）

- 8.15 県、市町村の援助により血液銀行を新築[建設面積 209.51㎡]
- 9. 1 初代所長 久保園善次郎就任（兼前橋赤十字病院院長）
- 10.20 血液銀行採血業許可証認可となる（厚生省群薬第9472号）
医薬品製造業認可証認可となる（第8356号）
医薬品販売業認可証承認となる（第43号）
群馬県赤十字血液銀行の業務開始
移動採血車第1号（2ベッド）を整備
愛称を県民より募集し「(おおとね号)」と決まる
ABO式血液型（オモチ・ウラ）Rho 式血液型
梅毒血清学的検査（ガラス板法・緒方法）
O型力価測定（Low、High）実施



●1964年（昭和39年）

- 8.21 閣議決定（献血の推進について）
- 9. 肝機能検査（S-GOT）開始

●1965年（昭和40年）

- 2.13 血液銀行を血液センターに改称
- 8.13 移動採血車おおとね2号（3ベッド）を整備
- 8.16 第2代所長 吉野文郁就任

●1966年（昭和41年）

- 3.31 事務室、保存室、検査室を増築（全建設面積 381.08㎡）となる

●1967年（昭和42年）

- 2.24 血液運搬車車庫を新築（45.37㎡）

●1968年（昭和43年）

- 3.26 移動採血車おおとね3号（2ベッド）を整備（採血車3台となる）
- 9. 4 移動採血車第1号を廃車（37年整備）（採血車2台となる）

●1969年（昭和44年）

- 3. O型力価測定廃止

●1970年（昭和45年）

- 1.24 開設以来延べ献血者10万人達成
- 9. 不規則抗体スクリーニング検査開始

●1971年（昭和46年）

- 4. 1 血液代金差額について国庫補助を受ける（昭61.3.31廃止）
- 4.15 群馬県交通安全保障協会より血液運搬車1台寄贈
- 7. 1 HBs抗原検査開始（SRID法）開始
- 9. 4 移動採血車車庫を新築（108㎡）

●1972年（昭和47年）

- 1. 1 免疫電気泳動法（IES法）にてHBs抗原・抗体検査を開始
- 3.23 移動採血車おおとね1号（3ベッド）を整備（採血車3台となる）

●1973年（昭和48年）

- 6.21 赤十字アルブミン20販売開始
- 11.20 移動採血車おおとね2号（4ベッド）を更新（40年整備）

●1974年（昭和49年）

- 4. 1 血液代金自己負担金給付制度開始（昭61.4月廃止）
- 9.24 成分製剤11品目の許可を受ける

●1975年（昭和50年）

- 1.15 はたちの献血キャンペーンはじまる
- 8.19 移動採血車おおとね3号（4ベッド）を更新（43年整備）
- 10. 梅毒検査緒方法よりRPR法に変更

●1976年（昭和51年）

- 10. 2 成分製剤2品目追加許可を受ける
- 11.27 トヨタ・カローラ群馬、カローラ高崎より

献血運搬車 1 台寄贈

●1977年（昭和52年）

- 6. 7 上毛新聞社「愛の募金」より献血運搬車 1 台寄贈
- 12. 1 物置を新築28.32㎡

●1978年（昭和53年）

- 3. 4 開設以来延べ献血者数50万人達成
- 10. 1 HBs抗原検査IES法よりR-PHA法に変更

●1979年（昭和54年）

- 11. 1 採血容器を瓶からバッグに全面変更する
- 11.26 移動採血車おとね5号（5ベッド）を整備（採血車4台となる）

●1980年（昭和55年）

- 3.26 検査サービス室、製剤準備室を増設（本館全建物面積 417.14㎡）
- 7. 肝機能検査S-GOTよりS-GPTに変更
- 10. 1 献血登録制を始める

●1981年（昭和56年）

- 5. 7 生化学的検査機器ACA6008Nを導入
- 6. 2 抗HBs人免疫グロブリン「日赤」の販売開始
- 9. 1 生化学的検査結果の異常者への通知を開始
肝機能異常者でHBs抗原陽性者へ通知を開始
- 12.18 日本石油より献血運搬車 日産 セドリック（ミスターセイフティー号）1 台寄贈

●1982年（昭和57年）

- 4. 1 献血手帳の一部改正となる（供給記録欄を削除）
生化学的検査結果全員通知を開始
- 8.27 移動採血車おとね1号（4ベッド）を更新（47年整備）
- 9. 1 HBs抗原検査結果陽性者に通知を開始

●1983年（昭和58年）

- 8. 9 開設以来延べ献血者100万人達成

●1984年（昭和59年）

- 3. 8 血液製剤1品目（分画プラズマ）の製造許可を受ける

- 4. 5 赤十字アルブミン50供給販売開始

- 7.24 移動採血車おとね3号（4ベッド）を更新（50年整備）

- 12.20 県、市町村の補助を受け血液センターを新築移転（建物面積2,660.07㎡、車庫480㎡、物置7.2㎡）

- 12.24 医薬品製造業許可第8581号を受け業務開始
血液センター採血業許可証 厚生省収薬第34214号
成分製剤2品目の追加製造承認を受ける



●1985年（昭和60年）

- 3.28 HBワクチン用製剤2品目追加製造許可を受ける
- 7.30 移動採血車おとね6号（4ベッド）を整備（採血車5台となる）
- 3.31 国庫金による血液代金給付制度廃止

●1986年（昭和61年）

- 4. 1 採血及び供血幹旋業取締法施行規則の一部改正（400mL・成分献血が導入）
第3代所長 藤井佐司就任
群馬県献血推進員2名設置
- 7. 生化学自動分析装置 機種変更（ACA6008NよりACA8000へ）
- 9.12 移動採血車おとね2号（4ベッド）を更新（48年整備）
- 9.16 多目的血球計数装置E-4000整備
- 10. 1 HTLV-I抗体検査開始（PA法）
- 10.16 HIV抗体検査開始（ELISA法）
- 11. 6 成分採血装置V50整備し成分採血を開始
- 12.18 血液検査（血算）サービス開始
- 12.23 移動採血車おとね7号（4ベッド）を整備（採血車6台となる）

沿革

●1987年（昭和62年）

- 7.31 開設以来延べ献血者150万人達成
- 10. HIV抗体検査 ELISA法よりPA法に変更
- 10. 7 プラズマコレクターシステム整備

●1988年（昭和63年）

- 1.21 自動血液型判定機（グルバマチック2000システム整備）
- 5. 1 献血者自己申告制度（HIV）開始
- 9.28 大相撲大鵬親方より献血運搬車 トヨタ コロナ（大鵬号）1台寄贈

●1989年（平成元年）

- 1. 8 移動採血車おとおね5号（5ベッド）を更新（54年整備）
- 2.10 神戸義二氏より献血運搬車カローラ（神戸号）1台寄贈
- 3.15 成分採血装置CS3000整備
- 3.31 登録・パーソナルコンピュータ（NEC 5200）整備
- 12.27 HCV抗体検査（ELISA法）、HBc抗体（HI法）開始

●1990年（平成2年）

- 3. 6 成分採血装置オートフェレーシスC整備
- 5.21 オープン献血実施
- 6.25 バクスター社より器材運搬車 トヨタ ハイエース1台寄贈
- 10. 8 移動採血車（おとおね6号）成分採血併用型に改造し採血車での成分採血を開始
- 12. 1 コンピュータトータルシステム（NEC）整備
- 12.20 オープン採血用成分採血機材運搬車（コースタービッグバン）整備

●1991年（平成3年）

- 3.11 成分採血装置NDP整備
- 4. 1 凝固因子製剤用原料血漿確保始まる（50万L）
- 9.16 4週6休制施行実施
- 9.30 開設以来延べ献血者数200万人達成
- 12.25 群馬県骨髄データセンター業務開始

●1992年（平成4年）

- 1.21 赤血球M・A・P（日赤）製造許可を受ける
- 1.31 HCV抗体検査ELISA法からPHA法に変更

- 3. 1 国内自給に向け凝固因子製剤の供給販売開始（クロスエイトM250、500、1000）
- 6. HCV陽性者通知開始（通知基準による）
- 12. 3 赤血球M・A・P（日赤）製造開始
- 12.19 移動採血車おとおね1号（4ベッド）を更新（57年整備）

●1993年（平成5年）

- 2. 1 新登録者カード発行
- 4. 1 群馬県輸血懇話会設立
- 5. 1 成分採血装置ヘモネティクスMCS整備
- 10. 1 高崎出張所を設置（高崎熱血倶楽部）イーストタワービル1階に開設
- 10.15 移動採血車おとおね7号（4ベッド）を廃車（採血車5台となる）

●1994年（平成6年）

- 2.27 群馬県献血フェスティバル開催（伊勢崎市民文化会館）
- 3.28 4週8休制度施行実施
- 5.18 血液X線放射線照射装置（MRB-1520A-TV）整備し依頼による照射血液供給を開始
- 7. 生化学自動分析装置 機種変更（ACA8000より日立7250へ）
- 9. 1 コンピュータ全国統一センターシステム（NEC）整備
成分採血装置ミニオートフェレーシスC整備
- 11. 7 移動採血車おとおね3号（4ベッド）を更新（59年整備）

●1995年（平成7年）

- 6. 1 自動感染症検査機器PK7200を整備

●1996年（平成8年）

- 3.28 検診車の整備
- 4. 1 第4代所長に松山四郎就任
第3代所長藤井佐司名誉所長に就任
- 6.15 国際ソロプチミスト前橋より血液運搬車 スバル インプレッサ1台寄贈
- 9. 1 献血者全員の試験官方式による検体保管開始
- 9. 3 採血番号ラベルシート（IDカード）10桁に変更
- 9.26 開設以来延べ献血者数250万人達成
- 10. 出庫可否判定における検査履歴照合開始
- 11.30 お年玉付郵便葉書寄付金より血液運搬車

三菱 レグナム1台寄贈

●1997年（平成9年）

- 1.30 移動採血車（お年玉付郵便葉書寄付金）おとおね6号（4ベッド）を更新（60年整備）
- 3.13 移動採血車おとおね2号（4ベッド）を更新（61年整備）
- 4. 1 医務課長設置により組織並びに処務規定の一部改正（2部1データセンター9課1出張所17係）改組
- 9. ヒトバルボウイルスB19抗原検査の評価試験開始
- 10. 1 職員定数100名となる
- 12.28 血液X線照射装置（MBR-1520A-TM）を追加整備（2機となる）

●1998年（平成10年）

- 2. 1 梅毒検査RPR法よりTPPA法に変更
- 3.19 オープン献血会場で血小板採血を開始
- 4. 1 週休2日制実施
職員定数105名となる
- 7. 1 放射線照射血液が承認され薬価により供給開始（全血、赤血球M・A・P、濃厚血小板）
- 9. 1 前橋出張所（前橋ハートランド）大同生命前橋ビル1階に開設
- 12.21 放射線照射血液が追加承認され供給開始（洗浄赤血球・白血球除去赤血球・解凍赤血球・合成血）

●1999年（平成11年）

- 1.26 沖電気工業より保冷庫付血液運搬車寄贈
日産 AD マックスバン保冷庫付
- 2. 1 原料用血漿について当日以外の服薬者よりPPPのみの採血始める
- 2.26 移動採血車おとおね7号（4ベッド）を整備（採血車6台となる）
- 3. 5 前橋中央ライオンズクラブより魚八景ジュニア1台寄贈
- 4. 1 採血基準の改正により献血年齢69歳まで引き上げとなる
- 5.12 統一システム全国献血者一元管理に移行となる
- 6. 2 群馬県赤十字有功会より東芝液晶データプロジェクター1台寄贈（創立20周年記念）
- 9. 1 核酸増幅検査（NAT）開始

●2000年（平成12年）

- 1. 1 HTLV-1抗体検査陽性者に通知開始
- 2. 1 核酸増幅検査 500本プールより50本プール検査に変更
- 2.29 県の助成を受け血液センター1階部分を全面改修（供給部門に血液製品用保存室、製剤部門に二次更衣室等新設）、一部増築
- 3.17 ヒトバルボウイルスB-19抗原検査正式導入となる
- 5.16 NAT済み血小板供給を開始
- 7.26 群馬県学生献血推進連合による献血キャラバン隊を編成し県内11市長に献血推進メッセージを届ける（28日まで）
- 8.28 血液センター増築及び改修工事開始
- 10. 3 検診車整備 日野 リエッセⅡ
- 11.26 高崎出張所開設以来延べ献血者10万人達成

●2001年（平成13年）

- 2. 移動採血車おとおね9号（4ベッド）整備（採血車7台となる）
- 3.30 県の補助を受け増築及び改修工事竣工（1,746.58㎡を増築し、総延べ床面積4,406.65㎡）となる
- 4. 1 第5代所長に大月邦夫就任
- 5.22 HCV抗体検査、リエントリー開始
- 7. 3 血液センター増改築竣工記念式典
- 8. 6 赤十字アルブミン25販売開始
- 12.28 開設以来延べ献血者数300万人達成

●2002年（平成14年）

- 2.15 国際ソロプチミスト前橋より血液運搬車
日産 ウイングロード1台寄贈
- 4. 1 太田出張所「太田YOU愛」を東毛学習文化センター前に設立
HCV抗体陽性血液の核酸増幅検査の開始により、HCV抗体検査陽性者希望者全員に通知を開始
- 4.10 太田出張所「太田YOU愛」東毛学習文化センター前に開設業務開始
- 7. 5 DONOR CARD集発刊
- 7.31 薬事法及び採血及び供血あっせん業取締法の一部を改正され名称も「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」に変更され公布される
移動採血車おとおね5号（5ベッド）を廃

沿革

車（採血車6台となる）

- 12.31 移動採血車おとおね1号（4ベッド）を廃車（採血車5台となる）

●2003年（平成15年）

4. 1 HbC抗体陽性血液の核酸増幅検査の開始によりHbC抗体検査陽性者全員に通知を開始
6. 1 ホームページ開設
高崎出張所改修及び増設工事竣工（81.33㎡を増設し総延べ床面積283.37㎡）となる
- 6.13 献血者の献血歴の確認 遡及調査の実施（梅毒・HBV・HCV及びHIV）
10. 1 高崎出張所（高崎熱血倶楽部）10周年記念式典
- 12.12 高崎出張所開設以来延べ献血者15万人達成



●2004年（平成16年）

- 1.30 2ヶ月間（60日）貯留保管済み新鮮凍結血漿供給開始
- 3.31 供給冷凍室（貯留保管用）増築工事竣工（46.15㎡を増築し、総延べ床面積4,452.8㎡）となる
- 6.20 第二次血液事業統一システム導入
- 8.15 献血後情報の対応手順の変更（平16.7.30付厚生労働省「輸血用血液等遡及調査に関するガイドライン」に基づき）
- 8.28 核酸増幅検査50本プール検査より20本プール検査に変更
- 8.31 90日間貯留保管済みFFPの供給開始
10. 1 献血者本人確認全国実施
- 12.28 120日間貯留保管済みFFPの供給開始

●2005年（平成17年）

- 3.31 150日間貯留保管済みFFPの供給開始
4. 1 第6代所長に土田嘉昭就任
群馬県献血メールクラブの開始
- 7.29 6ヶ月間（180日）貯留保管済み新鮮凍結血漿供給開始
11. 1 第7代所長に遠藤敬一就任

●2006年（平成18年）

3. 1 成分採血由来製剤の保存前白血球除去の実施
- 7.13 群馬県立県民健康科学大学のオープン献血会場を皇太子殿下がご視察
第42回献血運動推進全国大会開催（群馬県総合スポーツセンター）
サンデン株式会社より血液運搬車 日産エクストレイル1台寄贈
富士重工業株式会社群馬製作所より血液運搬車 スバル フォレスター1台寄贈
群馬県病院協会、（社）群馬県医師会、（社）群馬県歯科医師会、（社）群馬県薬剤師会、（社）群馬県看護協会より器材運搬車 いすゞ エルフ1台寄贈
- 8.28 日赤ポリグロビンN注5% 2.5g/50mLの販売開始
- 9.15 日赤ポリグロビンN注5% 0.5g/10mL、日赤ポリグロビンN注5% 5.0g/100mLの販売開始
- 9.23 保存前白血球除去された成分採血由来新鮮凍結血漿製剤の供給開始
10. 1 献血カードの導入
検査業務が埼玉県赤十字血液センターへ集約
- 10.26 血小板成分採血における保存前白血球除去及び初流血除去の実施



●2007年（平成19年）

- 1.16 全血採血由来赤血球製剤の保存前白血球除去及び初流血除去の実施
- 3. 3 国際ソロブチミスト前橋より血液運搬車スバル インプレッサ1台寄贈
- 8. 1 保存前白血球除去された全血採血由来新鮮凍結血漿製剤の販売開始
- 11.14 有効期間「採血後4日間」に変更となった血小板製剤の供給開始

●2008年（平成20年）

- 2. 8 血清学的検査を凝集法から化学発光酵素免疫法（CLEIA法）へ変更（同年8月全国で導入）
- 7.21 輸血用血液製剤の新バーコード表示による製造開始
- 7.23 初流血除去を実施した成分採血由来新鮮凍結血漿の供給開始
- 8. 新NATシステムへ切り替え（HIV-1グループ0及びHIV-2の検出も可能）

●2009年（平成21年）

- 1.29 前橋出張所改装工事竣工
- 2.11 前橋出張所「前橋ハートランド」10周年記念イベント開催（於 ユナイテッド・シネマ前橋）
- 3.10 移動採血車おとね3号（4ベッド）を整備
- 3.15 糖尿病関連検査（グリコアルブミン検査）の開始
- 4. 1 第8代所長に小泉武宣就任
高崎出張所（高崎熱血倶楽部）の定休日が第4月曜日に変更
- 4.23 移動採血車おとね2号（4ベッド）を廃車（採血車5台となる）
- 11.23 第1回献血感謝デー開催（於 イオンモール高崎）
- 12.28 血漿分画製剤の販売名の変更に伴い、日赤ポリグロビンN5%静注5g/100mLの販売開始。他の血漿分画製剤に関しても新販売名の製剤を順次販売開始

●2010年（平成22年）

- 1.27 1980年から1996年の英国滞在歴の献血制限が「1日以上」（1泊以上）から「通算1ヶ月以上」（31日以上）に緩和

- 2. 5 血小板製剤及び成分採血由来血漿製剤の販売名の変更に伴い、（照射）濃厚血小板-LR「日赤」と（照射）濃厚血小板HLA-LR「日赤」の供給開始。成分採血由来血漿製剤については6ヶ月間（180日間）貯留保管後、順次供給開始
- 2.13 高崎城ライオンズクラブより医療用デジタル体重計1台寄贈
- 5.31 血液センター2階間仕切り改修工事竣工
- 11.23 第2回献血感謝デー開催（於 イオンモール高崎）
- 12.14 高崎出張所高崎熱血倶楽部採血業務を廃止
- 12.15 高崎出張所高崎駅献血ルームHarmony（JR高崎駅東口3階イーサイト内）業務開始
- 12.28 血球計数検査サービス（8項目）を200mL全血献血へ拡充開始



高崎駅献血ルームHarmony

●2011年（平成23年）

- 2.15 （財）日本宝くじ協会助成事業「移動採血車の整備事業」による移動採血車（4ベッド）を整備（採血車6台となる）
- 3. 7 移動採血車おとね7号（4ベッド）を廃車（採血車5台となる）
- 4. 9 東日本大震災対策支援要員として職員を派遣（計5回）
- 7.27 赤十字アルブミン5%静注12.5g/250mLの販売開始
- 8.16 群馬県より〔平成23年度献血・骨髄ドナー登録推進業務（緊急雇用創出事業）〕委託を受託（9.1実施）
- 11.23 第3回献血感謝デー開催（於 イオンモール高崎）

沿革

●2012年（平成24年）

- 4. 1 広域事業運営体制の開始（1部 1データセンター 6課3出張所 19係）改組
- 8. 6 献血血液の検査基準の変更
輸血後のB型肝炎対策として「HBc抗体（C.O.I.）1.0以上12.0未満かつHBs抗体価200mIU/mL未満」の献血者に対する献血制限の実施
- 10. 1 シャーガス病に係る安全対策開始
- 11.23 第4回献血感謝デー開催（於 イオンモール高崎）



●2013年（平成25年）

- 1.16 「献血の同意説明書」の導入
- 1.26 日赤ポリグロビンN10%静注5g/50mL、日赤ポリグロビンN10%静注10g/100mLの販売開始
- 2. 4 太田出張所改修工事に伴う採血業の休止
- 2.26 血液センターの1階製造部門に係る部分の改修工事開始
- 3. 8 災害救護機材配備（タブレット型PC端末5式）
- 3.25 災害救護資材配備（雨衣・防寒着）
- 3.27 災害救護資材配備（非常食）
- 3.31 血液センターの1階製造部門に係る部分の改修工事完了
- 5. 2 太田出張所太田献血ルーム業務開始
- 9. 3 成分採血由来の新鮮凍結血漿の容量を450mLから480mLに変更。
3つの製剤規格容量を整数倍へ（120mL、240mL、480mL）
- 11.24 第5回献血感謝デー開催（於 イオンモール高崎）



太田献血ルーム

●2014年（平成26年）

- 1.28 災害救護機材配備（ノート型PC端末2台、デジタルカメラ1式）
- 3.27 災害救護資材配備（非常食）
- 4. 1 第9代所長に林 泰秀就任
- 5.11 血液事業情報システム稼働（供給部門）
- 6.25 血液事業情報システム稼働（全部門）
- 8. 1 個別NAT検査開始
- 9.29 関東甲信越ブロックでの血小板製剤分割開始
- 10. 1 検査サービス通知書（ハガキ）新様式開始
- 11.24 第6回献血感謝デー開催（於 イオンモール高崎）

●2015年（平成27年）

- 2.23 前橋出張所改修工事に伴う採血業の休止
- 2.26 災害救護資材配備（発電機1台）
- 2.28 前橋出張所前橋献血ルーム業務開始
- 3.10 災害救護資材配備（スノーダンプ5台、スコップ10本、ストーブ3台）
- 3.25 災害救護資材配備（非常食）
- 3.31 血漿分画製剤の全製剤販売終了



前橋献血ルーム

- 7. 8 北関東高校献血打合せ会開催
- 11.22 第7回 献血感謝デー開催（於 けやきウォーク前橋）

●2016年（平成28年）

- 2. 2 （財）日本宝くじ協会助成事業「移動採血車の整備事業」による移動採血車（4ベッド）を整備
- 2.19 災害救護資材配備（ADバン）
- 3.20 献血模擬体験「キッズ献血」を実施（於 イオンモール高崎）
- 3.30 移動採血車おとね9号を廃車
- 4. 1 ALT検査による製品除外基準の変更
血液センター広報誌Yell創刊
- 9.13 照射洗浄血小板-LR「日赤」及び照射洗浄血小板HLA-LR「日赤」の供給開始
- 11.23 第8回 献血感謝デー開催（於 けやきウォーク前橋）
- 12.16 災害救護資材配備（スチールラック）

●2017年（平成29年）

- 2.27 血小板採血調整システム稼働
- 2.28 災害救護資材配備（トラベルバッグ）
- 3.20 第2回キッズ献血（於 イオンモール高崎）
- 3.22 災害救護資材配備（ヘルメット）

- 3.24 災害救護資材配備（非常食）
- 4. 1 献血者の不規則抗体スクリーニングの検査法変更
- 5.18 国際ソロプチミスト前橋より献血広報車スバル インプレッサ1台寄贈
- 11.18 全社統合情報システム導入
- 11.26 第9回 献血感謝デー開催（於 けやきウォーク前橋）
- 12.19 災害救護資材配備（テント）

●2018年（平成30年）

- 2.21 災害救護資材配備（非常食）
- 3.21 第3回キッズ献血（於 イオンモール高崎）
- 4. 1 第10代所長に丸山 健一就任
- 10.29 献血推進・予約システム（CMS）導入
- 11.25 所長感謝状贈呈式開催（於 けやきウォーク前橋）
- 12. 6 災害救護機材配備（スポットエアコン2台、ダクト2本）

●2019年（平成31年）

- 1. 6 第10回 献血感謝デー開催（於 けやきウォーク前橋）
- 2.19 災害救護資材配備（非常食）
- 3.21 第4回キッズ献血（於 イオンモール高崎）

第42回日本血液事業学会総会 発表演題

会期：平成30年10月2日～10月4日 会場：幕張メッセ国際会議場

「複数回献血クラブの効果的な活用について」

大竹宏和、安藤僚祐、町田有希、青木康浩、高橋健太、飯塚静、富田亮、田村伸雄、須田聖、渡辺進、庄山隆、町田孝一、林泰秀、丸山健一

「10代献血者確保の取り組みについて」

稲村靖彦、北爪寿明、松村泰男、渡辺進、庄山隆、町田孝一、林泰秀、丸山健一

「情報共有を活用した皮下出血減少への取り組み」

田所理絵、小林千春、関口里美、高橋星子、小見裕子、樺澤玲子、都丸冷子、松村泰男、庄山隆、町田孝一、林泰秀、丸山健一

「群馬県合同輸血療法委員会による医療機関相互訪問 一廃棄削減に向けて」

坂倉慶太、伊藤浩志、上村政彦、飯島浩之、赤上直人、横手恵子、丸橋隆行、中西文江、鈴木浩子、庄山隆、町田孝一、林泰秀、丸山健一、齊藤一之、横濱章彦

組織体制

群馬県赤十字血液センター



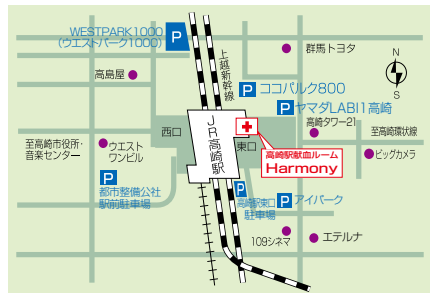
- 所在地 〒379-2154
群馬県前橋市天川大島町
2-31-13
- 開設年月日 昭和59年12月20日
- 敷地面積 3,835.73 ㎡
- 建物の構造 本館棟／鉄筋コンクリート造
地下1階 地上2階
(塔屋付)
別館棟／鉄骨造 地上3階
(塔屋付)
- 延床面積 4,452.8㎡

高崎駅献血ルームHarmony

- 受付時間 全血献血／10:00～13:00
14:00～17:30
成分献血／10:00～12:30
14:00～17:00
- 休業日 年末年始
- 床面積 325.58㎡
- ベッド数 11ベッド
(全ベッド液晶テレビ付)
- 採血装置 成分・全血採血装置



〒370-0849 群馬県高崎市八島町222 JR高崎駅東口3階 イーサイト内
TEL027-327-8139 FAX027-327-8143



前橋献血ルーム

- 受付時間 全血献血／10:00～13:00
14:00～17:30
成分献血／10:00～12:30
14:00～17:00
- 休業日 年末年始
- 床面積 310.19㎡
- ベッド数 10ベッド
(全ベッド液晶テレビ付)
- 採血装置 成分・全血採血装置



〒371-0805 群馬県前橋市南町3-9-5 (大同生命ビル1F)
TEL027-220-5522 FAX027-220-5523

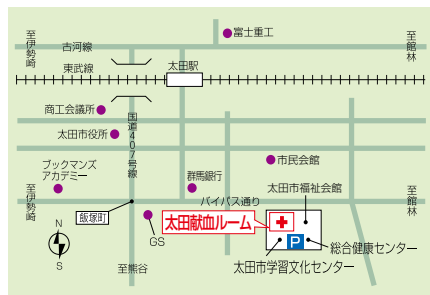


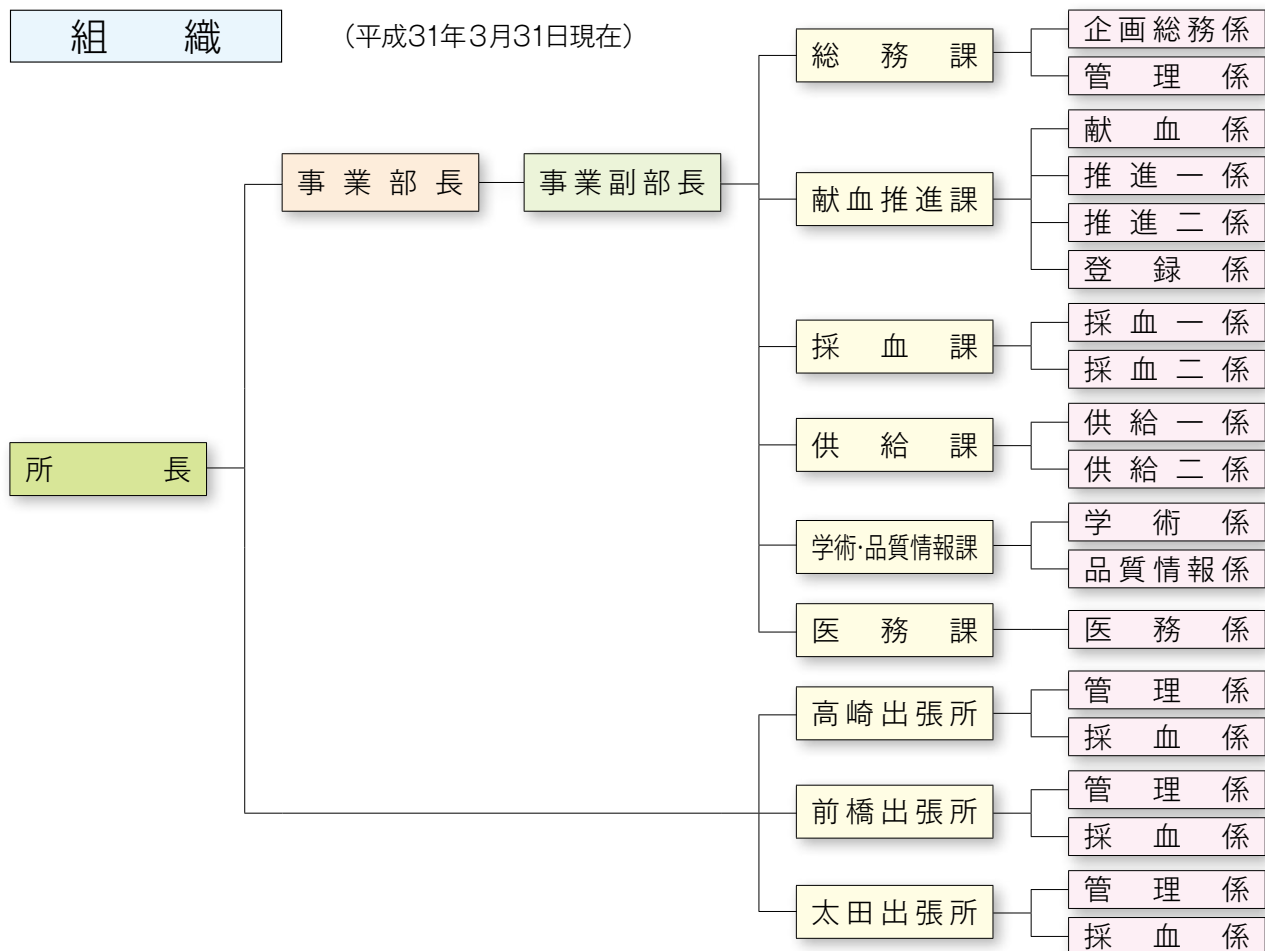
太田献血ルーム

- 受付時間 全血献血／10:00～13:00
14:00～17:30
成分献血／10:00～12:30
14:00～17:00
- 休業日 年末年始
- 床面積 396㎡
- ベッド数 10ベッド
(全ベッド液晶テレビ付)
- 採血装置 成分・全血採血装置



〒373-0817 群馬県太田市飯塚町1549-2 (太田市学習文化センター前)
TEL0276-60-3300 FAX0276-49-3300

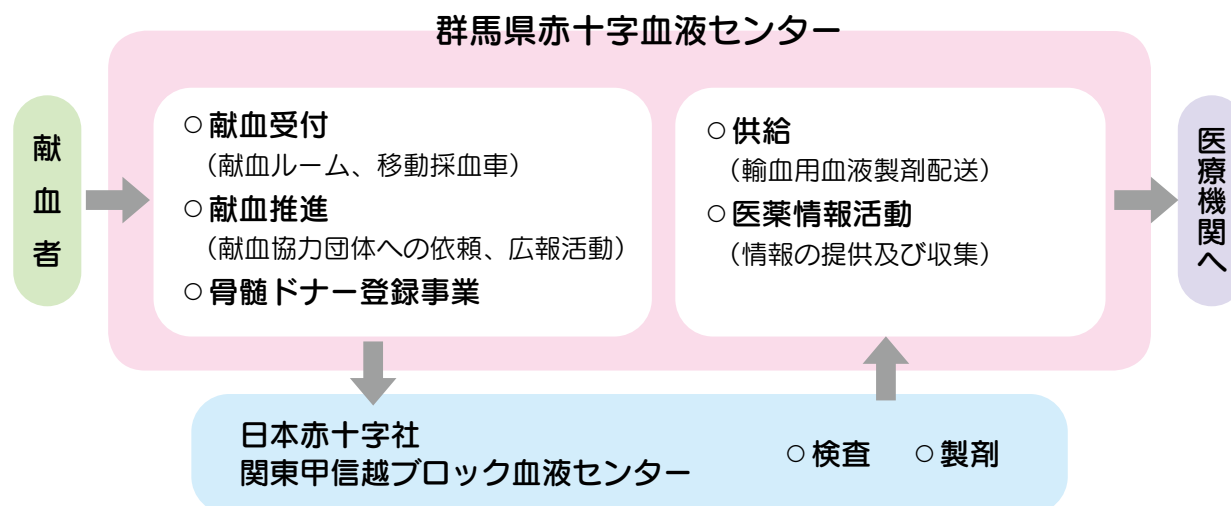




職 員 (平成31年3月31日現在)

医 師	薬 剤 師	看 護 師	事 務 職 員	合 計
1	2	31	59	93

群馬県赤十字血液センターの業務の流れ



献血の概況

平成30年度、県民の皆様のご理解とご協力をいただき、県内で延べ85,395名の献血協力をいただきました。おかげさまで県内の各医療機関へ輸血用血液製剤を滞りなく供給することが出来ました。また、血漿分画製剤用血漿の国内需給に向けその確保に努めることが出来ました。

献血者数については、受付者数 95,709名（前年度比99.7%）、献血者数 85,395名（前年度比100.2%）という結果でした。

献血種類別の内訳は全血献血者数 56,017名（前年度比98.4%）、成分献血者数 29,378名（前年度比103.8%）となっております。

詳細をみてみますと、全血献血者数のうち400mL献血者数は 52,860名（前年度比97.9%）、200mL献血者数は 3,157名（前年度比106.8%）となりました。200mL献血を1単位として換算すると 108,877単位（前年比98.2%）の確保をすることができました。また、全血献血中の400mL献血構成比は94.4%（前年比0.4%減）となりました。前年比で献血者数は減少しているものの400mL献血の高単位製剤を十分に確保することができたため医療機関の需要に応えることができました。

成分献血者数のうち血小板成分献血者数は 9,591名（前年度比104.2%）、血漿成分献血者数は 19,787名（前年度比103.6%）でした。

献血推進対策としては「400mL全血献血、成分献血の推進」、「献血協賛企業の増加」、「複数回献血者（ラブラッド会員）の促進」及び「若年層献血者確保」を重点的に努めました。更に、県内のスポーツ団体との協力体制を構築し、キャンペーン活動やEメール、SNSを活用する等の対策を講じて広く県民の皆様へ啓発を行うことができました。

今後も引き続き輸血用血液製剤の「更なる安全性の向上」及び「安定的な確保」を最重要課題として取り組んでまいります。

1 献血ルーム

■高崎出張所：愛称「高崎駅献血ルーム Harmony」

「高崎駅献血ルーム Harmony」は、交通やショッピングに便利なJR高崎駅東口ローサイト内に平成22年12月15日に開設しました。駅構内という好立地にあり、内装は「音楽のある街高崎」をイメージしたものとなっております。また、多くのボランティア団体に協力をいただいております、日々多くの献血者の方で賑わっております。

363日開設：受付者数 21,202名

献血者数 19,515名（1日平均献血者数53.8名、施設別構成比22.9%）

献血種類別では全血献血者数が8,811名（構成比45.1%）、内400mL献血者8,327名（400mL献血率94.5%）成分献血者数が10,704名（構成比54.9%）

■前橋出張所：愛称「前橋献血ルーム」

「前橋献血ルーム」は、県内2番目の献血ルームとして、JR前橋駅南口の大同生命ビル1階に、平成10年9月1日に開設いたしました。また平成27年2月28日にロビーを陽だまりのような空間をイメージにリニューアルいたしました。皆様のご支援ご協力と高等学校インターアクトクラブをはじめ多くのボランティアの方々に支えられております。

363日開設：受付者数 16,739名

献血者数 15,629名（1日平均献血者数は43.1名、施設別構成比18.3%）

献血種類別では全血献血者が6,011名（構成比38.5%）、内400mL献血者5,784名（400mL献血率96.2%）成分献血者が9,618名（構成比61.5%）

■太田出張所：愛称「太田献血ルーム」

「太田献血ルーム」は太田市飯塚町の東毛学習文化センター（現太田市学習文化センター）前に、全国的にも珍しい単独平屋建ての県内では1番の広さを誇る献血ルームとして、平成14年4月10日に開設いたしました。平成25年5月2日には、広々としたロビーのカジュアルなオープンスペースのカフェスタイルにリニューアルオープンしました。また、環境に配慮した街づくりを目指す太田市に習い、ソーラーシステムを導入したエコな献血ルームです。

363日開設：受付者数 17,447名

献血者数 15,953名（1日平均献血者数43.9名、施設別構成比18.7%）

献血種類別では全血献血者が6,897名（構成比43.2%）、内400mL献血者6,806名（400mL献血率98.7%）成分献血者が9,056名（構成比56.8%）

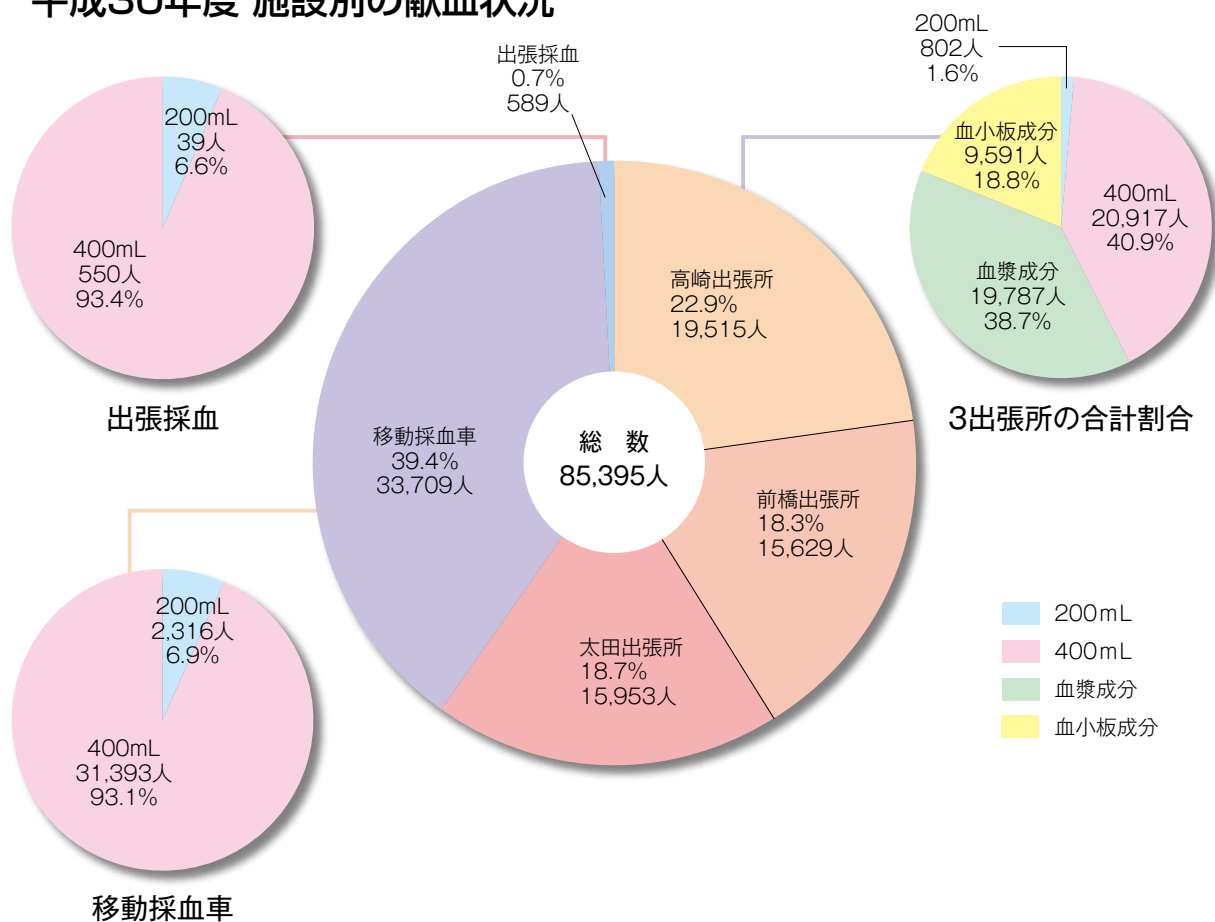
2 移動採血車

全血献血者の受入れを主として4台の移動採血バスで運用をしています。延べ792台が県内の各献血会場で献血者の受入れを行いました。受付者数は39,617名、献血者数は33,709名（1台平均45.4名）でした。なお、全血献血に占める400mL献血構成比は93.1%で前年度比0.3%の増加となりました。

3 出張採血

移動採血バスの配車が困難な場所において会議室等を献血会場にして実施する出張献血を、11会場で行いました。受付者数は704名、献血者数は589名でした。

平成30年度 施設別の献血状況



献血推進の概況

広報・キャンペーン活動

1. プロスポーツ団体とのコラボ事業

ラグビーチーム「パナソニックワイルドナイツ」

- (1) 献血推進ポスター作成
- (2) ラグビートップリーグ公式戦会場献血
対 リコーブラックラムズ戦

日程 平成30年10月13日（土）

会場 太田市総合運動公園陸上競技場前

内容 場内アナウンスによる献血啓発



2. 第9回夏休み親子献血教室

期日 平成30年7月24日（火）・7月31日（火）

会場 群馬県赤十字血液センター前橋出張所・高崎出張所・関東甲信越ブロック血液センター埼玉製造所

内容 献血から輸血用製剤が出来るまでの基礎知識の学習、
献血ルームの見学（献血模擬体験）、
埼玉製造所の見学（製造部門、検査部門）

後援 群馬県教育委員会・株式会社エフエム群馬・群馬テレビ株式会社・上毛新聞社

協力 群馬県・前橋市・高崎市



3. 第10回献血感謝デー

- (1) 群馬県赤十字血液センター所長感謝状贈呈式

日程 平成30年11月25日（日）

会場 けやきウォーク前橋（2階 けやきホール）

内容 献血功労者表彰式、輸血経験のある女優・モデルの「友寄 蓮さん」講演

- (2) 献血感謝デーイベント

日程 平成31年1月6日（日）

会場 けやきウォーク前橋（1階 けやきコート ほか）

内容 アトラクション（いわしピクニックLIVEショー、
沢入国際サーカス学校パフォーマンス、歌う海賊団ッ！
ステージ）、献血クイズ など

後援 株式会社エフエム群馬・群馬テレビ株式会社・上毛新聞社

協力 群馬県・群馬県学生献血推進連盟



4. 全国学生クリスマス献血キャンペーン

- (1) 日程 平成30年12月16日(日)
会場 けやきウォーク前橋
- (2) 日程 平成30年12月22日(土)
会場 スマーク伊勢崎
内容 学生ボランティアによる献血の呼びかけ及び
献血協力者へオリジナルグッズを進呈
主催 群馬県学生献血推進連盟



5. はたちの献血キャンペーン

- 期間 平成31年1月1日(火)～平成31年2月28日(木)
- (1) 「はたちの献血」イベント
日程 平成31年1月27日(日)
会場 スマーク伊勢崎(1階 はるなプラザ ほか)
内容 パナソニックワイルドナイツ選手による血液センター1日
所長委嘱式及び広報(笠原開盛 選手、福井翔太 選手)、県
内大学生によるパフォーマンス(ダンス、書道、アカペラ)、
大道芸パフォーマンス、学生ボランティアによる献血広報
及び献血啓発活動 など
主催 群馬県
協力 パナソニックワイルドナイツ・日本赤十字社群馬県支部・
群馬県学生献血推進連盟・共愛学園高等学校・群馬県立伊
勢崎高等学校



6. キッズ献血

- 期日 平成31年3月21日(木・祝)
会場 イオンモール高崎
内容 献血模擬体験
参加者に記念品を進呈・キッズ献血カードの発行(専門店の
特典あり)
後援 群馬県・群馬県教育委員会・株式会社エフエム群馬・群馬
テレビ株式会社・上毛新聞社
協力 群馬県学生献血推進連盟・高崎商科大学附属高等学校
特別協賛 イオンモール高崎

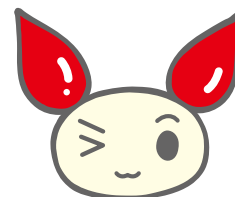


7. 広報誌 Y e l l (エール)

年3回発行

複数回献血クラブ「ラブラッド」について

平成30年10月、「複数回献血クラブ」は会員の方へのサービス向上を目的としたりニューアルを行い、愛称名を全国で「ラブラッド」に統一しました。ラブラッドにご登録いただくと、全国の固定施設を対象に献血のWeb予約が簡易にできるようになり、血液の検査結果も献血後2～7日程度といち早くわかるようになります。また、全国共通のポイント制度の導入により、一定のポイント数で記念品が交換できるほか、住所やメールアドレスの変更などのお手続きもWeb上で行うことが可能となります。



また、群馬県赤十字血液センターでは、ラブラッド会員の方々へ適宜メールを配信し、献血の依頼・要請などを行っております。血液の不足時や、医療機関から緊急要請があった場合にも、即時に情報発信ができるため、救命のネットワークとしてその重要性は、年々高まっております。その他、県内の献血会場、キャンペーンやイベント情報などのお知らせを行うなど、献血者と血液センターを繋ぐツールとして活用しています。

平成30年度は、献血の依頼・要請メールや、キャンペーン・イベントのお知らせメールを合わせて、延べ610,777名の方へ配信し17,820名（応諾率2.9%）の方にご協力をいただいております。

今後も継続的に会員数増加に努めるとともに、より良いサービスを提供し、会員の皆様にとって利便性の高い情報ツールにして参ります。

ラブラッド会員数 28,823名（平成31年3月31日現在）

献血サポーター

献血サポーターとは、医療に必要な血液を献血によって安定的に確保するために、献血や献血推進活動に積極的に協力いただける企業・団体のことです。献血サポーターとなった企業・団体には、「献血サポーター・ロゴマーク」を日常の企業活動等において活用いただいています。

国民の医療を支える献血のさらなる推進を図っていただき、また、社会貢献活動である献血活動を国民に広くPRする機会として「献血サポーター」へのご参加をお願いしています。

※このロゴマークは企業・団体が行う「献血活動」を応援するため、厚生労働省が製作したものです。
※このマークの使用にあたっては、「献血サポーター」活動への参加が必要となります。



献血サポーター

骨髄ドナー登録事業

日本赤十字社と骨髄データセンター事業（造血幹細胞事業）の関わりは、平成3年度に国からの依頼を受け、骨髄データバンク登録事業者として中央骨髄データセンター及び各地域骨髄データセンターを設置し、骨髄バンクドナー登録希望者を受け入れることから始まりました。

新たな動きとして日本赤十字社は、平成25年10月1日に国から「造血幹細胞提供支援機関」の指定を受けました。（関連法「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」平成26年1月1日施行）

支援機関の主な業務として、献血現場における骨髄ドナー登録推進活動が挙げられます。群馬県赤十字血液センターは、群馬県及び群馬県骨髄バンク推進連絡協議会と協同して、県内の骨髄バンクドナー登録を推進しております。

平成30年度、群馬県内の骨髄ドナー登録者数は807名でした。その内、献血バスと併行した骨髄ドナー登録会（献血併行型登録会）では、433名の登録をいただいております。

平成30年度 骨髄ドナー登録受付状況

単位：人

受付施設	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
高崎駅献血ルーム Harmony	7	6	3	4	8	7	5	4	7	13	50	31	145
前橋献血ルーム	6	3	3	7	3	4	3	8	4	8	46	24	119
太田献血ルーム	5	3	3	2	5	9	3	6	6	3	48	17	110
献血併行型登録会	26	24	6	32	44	41	43	46	36	24	42	69	433
合計	44	36	15	45	60	61	54	64	53	48	186	141	807

平成30年度 骨髄ドナー登録取消状況

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
取消者数	20	17	15	23	37	22	18	16	39	28	28	24	287

取消の主な要因は、「年齢超過」や「調整結果」などによるものです。

骨髄ドナー登録状況

群馬県内 〔全国〕

総登録者数：8,346人 〔780,197人〕

実登録者数：5,659人 〔509,263人〕

登録取消者数：2,687人 〔270,934人〕

平成31年3月31日現在

群馬県内の骨髄ドナー登録受付窓口（固定施設）

- | | | |
|-------------------|---|-----------------------------------|
| ○前橋献血ルーム | } | 〔受付時間〕 10：00～12：00
14：00～17：00 |
| ○高崎駅献血ルーム Harmony | | |
| ○太田献血ルーム | } | 〔休業日〕 年末年始 |
| | | |

検査・製剤の概況

群馬県で献血していただいた血液は、関東甲信越ブロック血液センター埼玉製造所へ運ばれ、血液型や感染症などの検査を行い輸血用血液製剤として製造されます。

その後、製造された輸血用血液製剤は群馬県赤十字血液センターに届けられ供給課で保管しています。

日本赤十字社関東甲信越ブロック血液センター埼玉製造所の業務



- 開設年月日 平成24年2月14日
- 所在地 〒355-0071
埼玉県東松山市大字新郷493-1
- 敷地面積 9,787.08 m²
- 建物の構造 鉄骨造地上3階建
- 延床面積 11,947.31 m²

関東甲信越ブロック血液センター埼玉製造所は、関東信越7県（群馬県、埼玉県、栃木県、新潟県、長野県、茨城県、山梨県）で献血していただいた血液の検査及び製造業務を行う施設です。

●検査

輸血による副作用や感染症予防のために血液型検査、感染症関連検査、献血者にお知らせする生化学検査、血球計数検査などを行います。

検査項目

- ・血液型検査：
A B O血液型検査、Rh血液型検査、不規則抗体検査
- ・感染症関連検査：
梅毒血清学的検査、B型肝炎ウイルス検査(HBs抗原、HBs抗体、HBc抗体)、C型肝炎ウイルス検査(HCV抗体)、エイズウイルス検査(HIV-1、2抗体)、HTLV-1抗体検査、ヒトパルボウイルスB19検査
- ・生化学検査：
ALT、γ-GTP、総蛋白(TP)、アルブミン(ALB)、アルブミン対グロブリン比(A / G比)、コレステロール(CHOL)、グリコアルブミン(GA)
- ・血球計数検査：
赤血球数(RBC)、ヘモグロビン濃度(Hb)、ヘマトクリット値(Ht)、平均赤血球容積(MCV)、平均赤血球ヘモグロビン量(MCH)、平均赤血球ヘモグロビン濃度(MCHC)、白血球数(WBC)、血小板数(PLT)
- ・核酸増幅検査：
B型肝炎ウイルス検査、C型肝炎ウイルス検査、エイズウイルス検査

このほか、必要に応じてHLA関連検査(HLA抗原検査・HLA抗体検査・血小板抗体検査)、まれな血液型検査、サイトメガロウイルス抗体検査等を行って、患者さんに適合した輸血用血液製剤を供給しています。



検査作業



検査機器

●製 剤

現在の輸血医療は必要な成分を輸血するために成分ごとに輸血用血液製剤として調製されます。また、輸血による副作用を予防するために保存前に白血球の大部分を取り除き、血漿製剤以外には、放射線を照射しています。

このように安全性の高い血液製剤の製造を行っています。



血液成分の分離作業



放射線照射作業



フィルトレーション作業（白血球除去）

●品質管理

輸血用血液製剤及び血漿分画製剤用原料血漿の安全性、品質及び均質性の確保を図るために、受入試験にて原料・資材・試薬の品質確認を実施しています。また、製品抜取試験（製品試験、無菌試験、凝固試験）、白血球数試験を実施し、各製剤の品質の確認を実施しています。

さらに、「医薬品及び医薬部外品の製造管理及び品質管理規則（GMP省令）」に規定されている要件を遵守して、各部門の作業が適正に行われているかを管理しています。



クリーンベンチ（無菌試験用）



無菌試験（培地）

供給の概況

群馬県赤十字血液センターでは12台の献血運搬車を配備しています。24時間365日体制で、県内すべての医療機関からの注文に対し、必要な輸血用血液製剤を供給しています。また、要請に応じて緊急輸送も行っており、230件の要請がありました。

献血由来の血漿分画製剤は、平成27年3月末日を以って販売中止となりました。

平成30年度の総供給数は79,703本で、前年度に対しては165本減少（前年度比99.8%）しました。供給単位数では289,898単位で、前年度に対しては5,759単位増加（前年度比102.0%）しました。

1. 血小板製剤

供給単位数は157,155単位で、前年度に対して5,780単位増加（前年度比103.8%）しました。血小板減少症を伴う疾患や大量出血時などに使用され、今日の輸血医療においては欠かすことのできない血液製剤であり、総供給数に占める血小板製剤の構成比は54.2%と最も高くなっています。全国的な需要傾向（全国平均前年比97.2%）に対して、当県においては前年度より若干増加しました。

平成28年9月13日から、照射洗浄血小板-LR「日赤」及び照射洗浄血小板HLA-LR「日赤」の供給を開始しました。

2. 血漿製剤

供給単位数[※]は31,418単位で、前年度に対して1,168単位増加（前年度比103.9%）しました。全国的な需要傾向（全国平均前年比98.5%）に対して、当県においては前年度と同数でした。

[※]平成29年度より200mL献血由来製剤を1単位、400mL献血由来製剤を2単位、成分献血由来製剤を4単位として換算

3. 赤血球製剤

供給単位数[※]は101,325単位で、前年度に対して1,189単位減少（前年度比98.8%）でした。全国的な需要傾向（全国平均前年比98.8%）に対して、当県においては前年度より同数でした。

[※]200mL献血由来製剤を1単位、400mL献血由来製剤を2単位として換算

4. 全血製剤

平成30年度は供給がありませんでした。



医薬情報活動の概況

医療機関に供給された血液製剤は、必要な情報（品質・有効性・安全性等）が付加されてはじめて適正に使用されます。その情報を「医療関係者に提供し、使用された際の情報を収集し、適切に分析・評価された結果を医療関係者へフィードバックする」これら一連の役割を担っているのが医薬情報担当者（MR：Medical Representative）で、学術・品質情報課 学術係がその業務を行っています。なかでも、輸血に伴う副作用・感染症自発報告症例を医療関係者から情報収集し分析・評価することは、血液製剤の安全対策にも反映される重要な業務と位置づけられており、平成30年1月には副作用・感染症における調査方法が一部変更されました。また、血液製剤の取り扱いに関する問い合わせの対応や医療関係者への勉強会を実施することで、有限で貴重な血液製剤を適正に使用して頂くよう活動しています。

安全かつ適正な輸血療法を目指すため、平成18年には県内医療機関、行政、血液センターが三位一体となった「群馬県合同輸血療法委員会」が設置され、事務局として委員会の活動を支援しています。平成29年度には委員会内に輸血関連看護師会を新たに設置し、県内の学会認定・臨床輸血看護師を中心に活動を開始しました。輸血実態調査については、平成30年度は日本輸血・細胞治療学会の輸血機能評価認定制度（I&A制度）をテーマに調査を行い、第13回群馬県合同輸血療法委員会では、その調査結果の報告やI&Aの視察員よりI&A制度について説明をして頂きました。また、血液製剤の適正使用を推進する活動として、委員会による医療機関訪問と学術講演会（国家公務員共済組合連合会 虎の門病院 牧野 茂義 先生による「チーム医療による安全で適正な輸血」）を行いました。



医療関係者への情報提供



医療機関での輸血勉強会

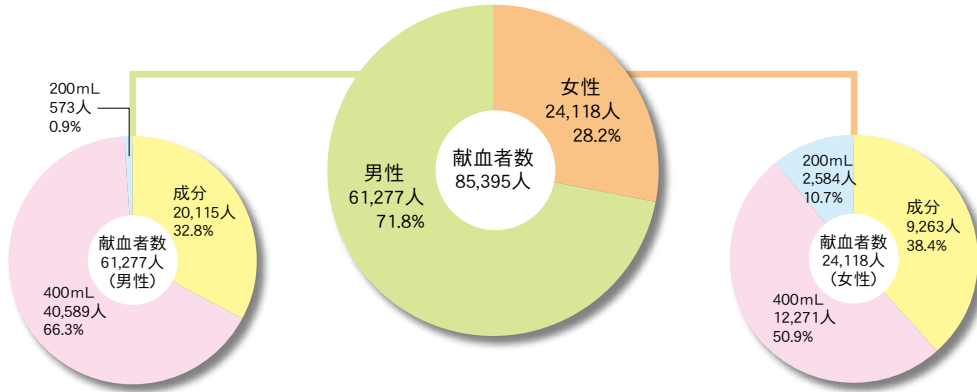


群馬県合同輸血療法委員会

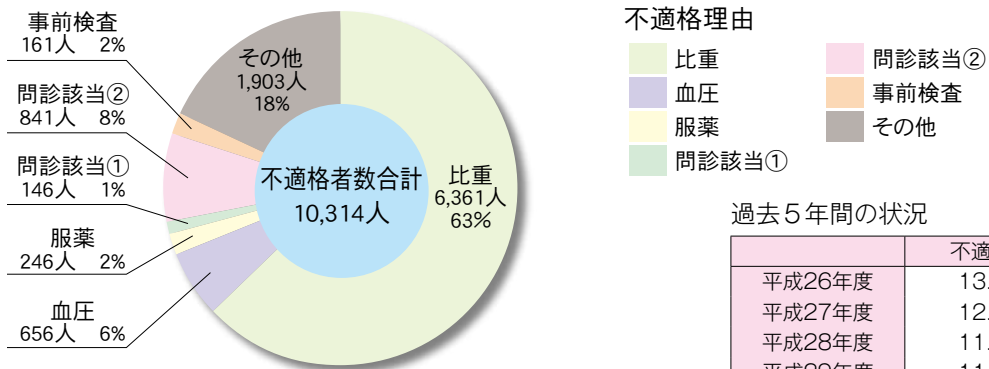
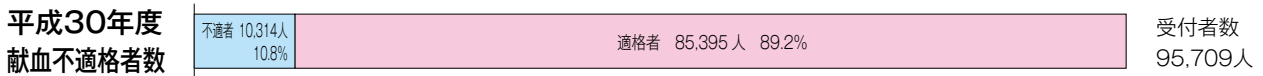
統計資料

平成30年度 献血状況

年月	献血ルーム		採血車		出張		計			
	受付人数	採血人数	受付人数	採血人数	受付人数	採血人数	受付人数	採血人数	男	女
平成30年度計	55,388	51,097 29,378 20,917 802	39,617	33,709 0 31,393 2,316	704	589 0 550 39	95,709	85,395 29,378 52,860 3,157	61,277 20,115 40,589 573	24,118 9,263 12,271 2,584



献血出来なかった人の状況



過去5年間の状況

年度	不適合率
平成26年度	13.2%
平成27年度	12.9%
平成28年度	11.0%
平成29年度	11.2%
平成30年度	10.8%

比 重 … 血液比重又は色素量が採血基準を満たさない場合

血 圧 … 血圧が採血基準を満たさない場合

服 薬 … 注射・服薬の状態が問診の基準を満たさない場合

問診該当① … B型C型肝炎ウイルス保有者、輸血歴・臓器移植歴のある人、C型肝炎の既往、慢性B型肝炎、原因不明の肝炎の既往、乾癬の治療にチガソン服用、梅毒の既往、マラリアの既往、クロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）の関連事項、HIVの関連事項、シャーガス病・アフリカトリパノソーマ症、リーシュマニア症の既往、バベシア症、vCJDに関連した欧州滞在歴

問診該当② … 問診該当①以外に問診上不適合な理由がある場合（体調不良、海外帰国後4週間以内等）

事 前 検 査 … 血算・心電図・検尿等で不合格の場合

そ の 他 … 献血者の意思変更、時間無し、血管が細いなどの理由で不合格の場合

献血不適合者の状況

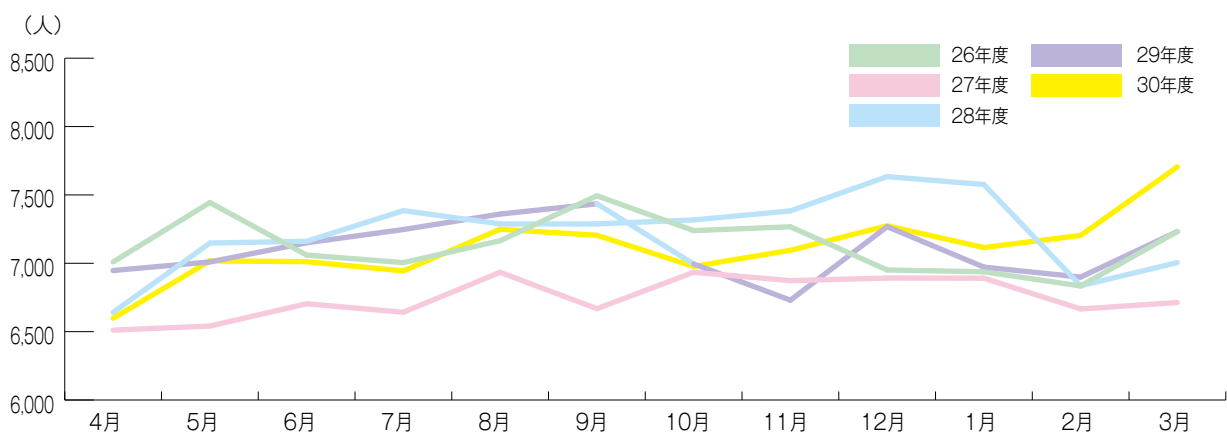
不適合理由	比 重	血 圧	服 薬	問診該当①	問診該当②	事前検査	その他	合 計
男	1,351	510	178	92	500	114	729	3,474
女	5,010	146	68	54	341	47	1,174	6,840
合 計	6,361	656	246	146	841	161	1,903	10,314

平成30年度 市町村別献血者数

	人口 (A)	受付者数	全血献血者数			成分献血者数			総献血者数 (B)	献血率 (B)/(A)
			200mL	400mL	計	血小板成分	血漿成分	計		
合計	1,941,195	95,709	3,157	52,860	56,017	9,591	19,787	29,378	85,395	4.4%
前橋ルーム		16,739	227	5,784	6,011	3,380	6,238	9,618	15,629	
高崎ルーム		21,202	484	8,327	8,811	3,098	7,606	10,704	19,515	
太田ルーム		17,447	91	6,806	6,897	3,113	5,943	9,056	15,953	
管内 合計		40,321	2,355	31,943	34,298	0	0	0	34,298	
前橋市	333,377	7,429	439	5,804	6,243	0	0	0	6,243	1.9%
前橋市保健所管内 計	333,377	7,429	439	5,804	6,243	0	0	0	6,243	1.9%
高崎市	368,818	7,575	552	5,848	6,400	0	0	0	6,400	1.7%
高崎市保健所管内 計	368,818	7,575	552	5,848	6,400	0	0	0	6,400	1.7%
渋川市	74,857	1,096	126	836	962	0	0	0	962	1.3%
榛東村	14,244	277	6	247	253	0	0	0	253	1.8%
吉岡町	21,888	633	9	561	570	0	0	0	570	2.6%
保健福祉事務所管内 計	110,989	2,006	141	1,644	1,785	0	0	0	1,785	1.6%
伊勢崎市	210,381	6,898	76	5,795	5,871	0	0	0	5,871	2.8%
玉村町	36,213	549	20	439	459	0	0	0	459	1.3%
保健福祉事務所管内 計	246,594	7,447	96	6,234	6,330	0	0	0	6,330	2.6%
安中市	55,883	1,006	47	862	909	0	0	0	909	1.6%
保健福祉事務所管内 計	55,883	1,006	47	862	909	0	0	0	909	1.6%
藤岡市	63,878	1,168	27	957	984	0	0	0	984	1.5%
上野村	1,102	26	0	25	25	0	0	0	25	2.3%
神流町	1,671	48	3	40	43	0	0	0	43	2.6%
保健福祉事務所管内 計	66,651	1,242	30	1,022	1,052	0	0	0	1,052	1.6%
富岡市	47,897	936	25	788	813	0	0	0	813	1.7%
下仁田町	6,718	106	12	81	93	0	0	0	93	1.4%
南牧村	1,706	20	0	18	18	0	0	0	18	1.1%
甘楽町	12,821	84	7	68	75	0	0	0	75	0.6%
保健福祉事務所管内 計	69,142	1,146	44	955	999	0	0	0	999	1.4%
中之条町	15,710	287	46	180	226	0	0	0	226	1.4%
長野原町	5,194	129	15	91	106	0	0	0	106	2.0%
嬬恋村	9,220	160	12	127	139	0	0	0	139	1.5%
草津町	6,245	100	6	81	87	0	0	0	87	1.4%
高山村	3,451	20	0	16	16	0	0	0	16	0.5%
東吾妻町	12,946	626	2	547	549	0	0	0	549	4.2%
保健福祉事務所管内 計	52,766	1,322	81	1,042	1,123	0	0	0	1,123	2.1%
沼田市	46,068	1,176	109	877	986	0	0	0	986	2.1%
片品村	4,032	74	2	60	62	0	0	0	62	1.5%
川場村	3,526	144	5	119	124	0	0	0	124	3.5%
昭和村	7,064	107	4	85	89	0	0	0	89	1.3%
みなかみ町	17,926	382	38	290	328	0	0	0	328	1.8%
保健福祉事務所管内 計	78,616	1,883	158	1,431	1,589	0	0	0	1,589	2.0%
太田市	221,376	3,357	234	2,614	2,848	0	0	0	2,848	1.3%
保健福祉事務所管内 計	221,376	3,357	234	2,614	2,848	0	0	0	2,848	1.3%
桐生市	108,734	2,395	332	1,699	2,031	0	0	0	2,031	1.9%
みどり市	49,587	618	19	491	510	0	0	0	510	1.0%
保健福祉事務所管内 計	158,321	3,013	351	2,190	2,541	0	0	0	2,541	1.6%
館林市	74,629	1,113	97	839	936	0	0	0	936	1.3%
板倉町	14,344	296	19	225	244	0	0	0	244	1.7%
明和町	10,937	249	19	196	215	0	0	0	215	2.0%
千代田町	11,019	247	2	214	216	0	0	0	216	2.0%
大泉町	41,781	739	42	612	654	0	0	0	654	1.6%
邑楽町	25,952	251	3	211	214	0	0	0	214	0.8%
保健福祉事務所管内 計	178,662	2,895	182	2,297	2,479	0	0	0	2,479	1.4%

人口データ：群馬県企画部統計課作成「移動人口調査」平成31年4月1日現在

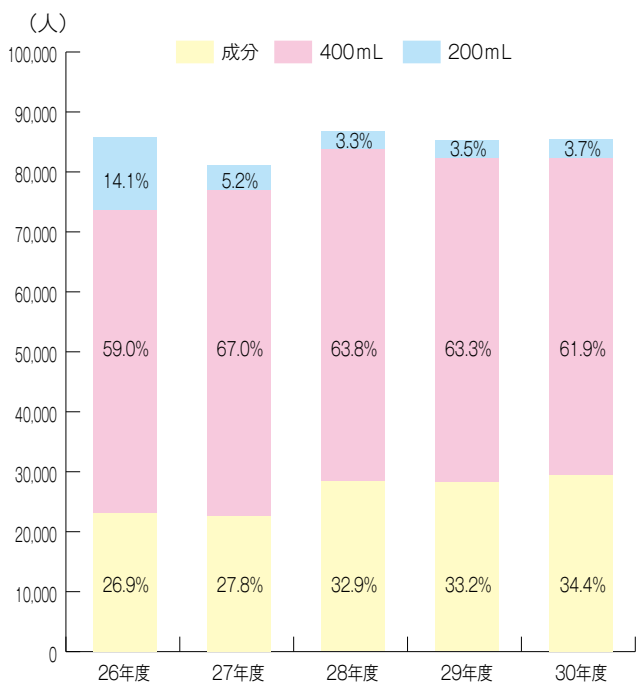
過去5年間の月別献血状況



(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	年度別月平均
26年度	7,010	7,444	7,060	7,005	7,165	7,494	7,239	7,267	6,951	6,938	6,834	7,232	85,639	7,137
27年度	6,511	6,541	6,704	6,642	6,934	6,668	6,934	6,873	6,892	6,891	6,666	6,713	80,969	6,747
28年度	6,641	7,148	7,161	7,385	7,288	7,288	7,317	7,383	7,634	7,576	6,836	7,005	86,662	7,222
29年度	6,947	7,010	7,150	7,247	7,360	7,435	6,995	6,730	7,268	6,972	6,899	7,232	85,245	7,104
30年度	6,598	7,017	7,012	6,944	7,249	7,205	6,977	7,095	7,274	7,115	7,204	7,705	85,395	7,116
月別平均	6,741	7,032	7,017	7,045	7,199	7,218	7,092	7,070	7,204	7,098	6,888	7,177		

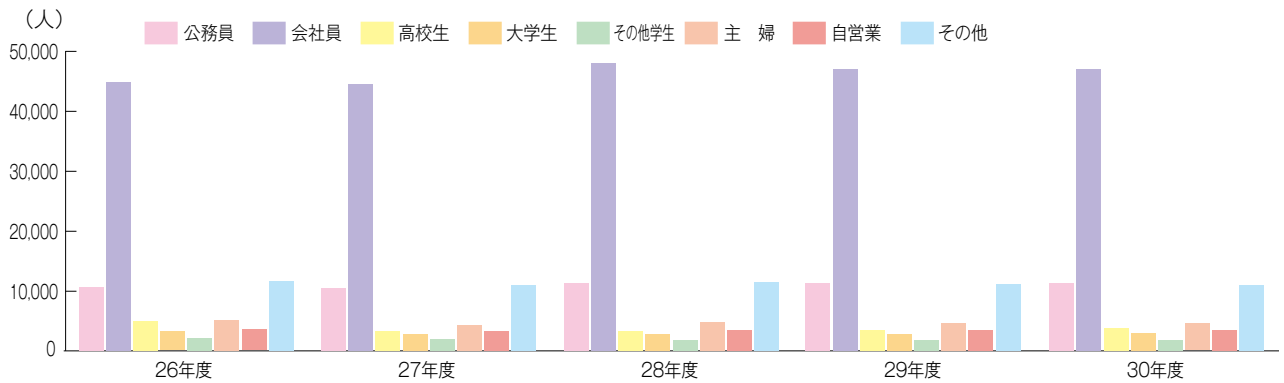
過去5年間の採血別献血者状況



(人)

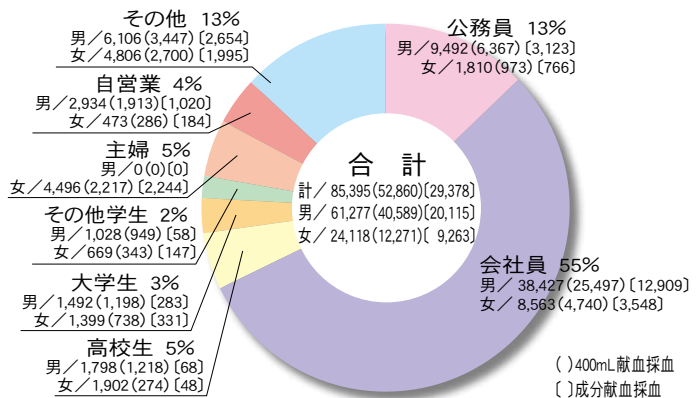
種別 \ 年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
成分	23,018	22,517	28,487	28,304	29,378
400mL	50,501	54,280	55,312	53,984	52,860
200mL	12,120	4,172	2,863	2,957	3,157
合計	85,639	80,969	86,662	85,254	85,395

過去5年間の職業別献血者状況

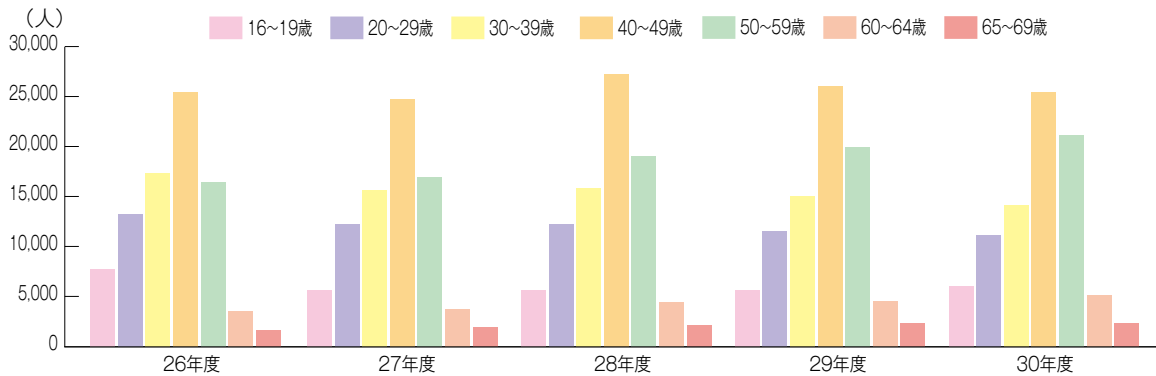


職業別	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
公務員	10,629	10,456	11,316	11,322	11,302
会社員	44,786	44,406	48,002	46,952	46,990
高校生	4,898	3,179	3,180	3,352	3,700
大学生	3,156	2,705	2,762	2,739	2,891
その他学生	2,145	1,865	1,747	1,750	1,697
主婦	5,019	4,236	4,813	4,644	4,496
自営業	3,491	3,256	3,449	3,417	3,407
その他	11,515	10,866	11,393	11,069	10,912
合計	85,639	80,969	86,662	85,245	85,395

■平成30年度職業別献血者数

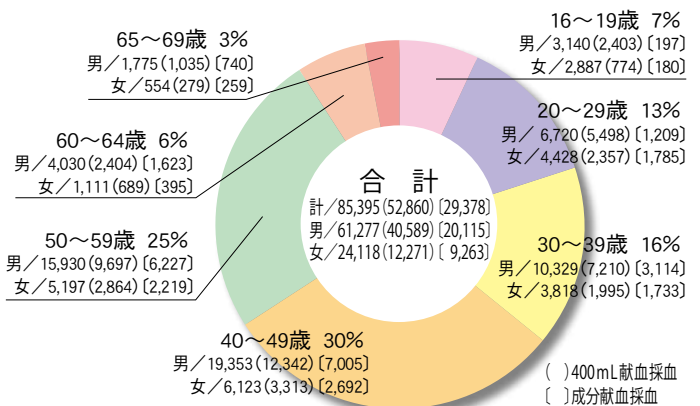


過去5年間の年齢別献血者状況



年齢別	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
16~19歳	7,800	5,610	5,650	5,665	6,027
20~29歳	13,277	12,255	12,223	11,601	11,148
30~39歳	17,322	15,698	15,889	15,060	14,147
40~49歳	25,464	24,755	27,233	26,076	25,476
50~59歳	16,489	16,949	19,066	19,961	21,127
60~64歳	3,598	3,793	4,420	4,558	5,141
65~69歳*	1,689	1,909	2,181	2,324	2,329
合計	85,639	80,969	86,662	85,245	85,395

■平成30年度年齢別献血者数



*平成11年4月1日より60~64歳のあいだに献血経験のある方に限り65~69歳の献血が可能となった。

血液型別供給本数(管内)

(単位：本)

全血製剤	販売名	略号	A型	O型	B型	AB型	合計
	人全血液-LR「日赤」		WB-LR-1	0	0	0	0
		WB-LR-2	0	0	0	0	0
照射人全血液-LR「日赤」		Ir-WB-LR-1	0	0	0	0	0
		Ir-WB-LR-2	0	0	0	0	0
	合計		0	0	0	0	0

(単位：本)

赤血球製剤	販売名	略号	A型	O型	B型	AB型	合計
	赤血球液-LR「日赤」		RBC-LR-1	0	0	0	0
		RBC-LR-2	1,006	948	489	146	2,589
照射赤血球液-LR「日赤」		Ir-RBC-LR-1	1,205	918	683	294	3,100
		Ir-RBC-LR-2	17,103	14,741	10,200	4,448	46,492
洗浄赤血球液-LR「日赤」		WRC-LR-1	0	0	0	0	0
		WRC-LR-2	0	0	0	0	0
照射洗浄赤血球液-LR「日赤」		Ir-WRC-LR-1	8	15	6	6	35
		Ir-WRC-LR-2	5	3	3	3	14
解凍赤血球液-LR「日赤」		FTRC-LR-1	0	0	0	0	0
		FTRC-LR-2	0	0	0	0	0
照射解凍赤血球液-LR「日赤」		Ir-FTRC-LR-1	0	0	0	0	0
		Ir-FTRC-LR-2	0	0	0	0	0
合成血液-LR「日赤」		BET-LR-1	0	0	0	0	0
		BET-LR-2	0	0	0	0	0
照射合成血液-LR「日赤」		Ir-BET-LR-1	0	0	0	0	0
		Ir-BET-LR-2	0	0	0	0	0
	合計		19,327	16,625	11,381	4,897	52,230

*平成26年8月より、赤血球濃厚液-LR「日赤」RCC-LR、照射赤血球濃厚液-LR「日赤」Ir-RCC-LRは、赤血球液-LR「日赤」RBC-LR、照射赤血球液-LR「日赤」Ir-RBC-LRへ変更。

(単位：本)

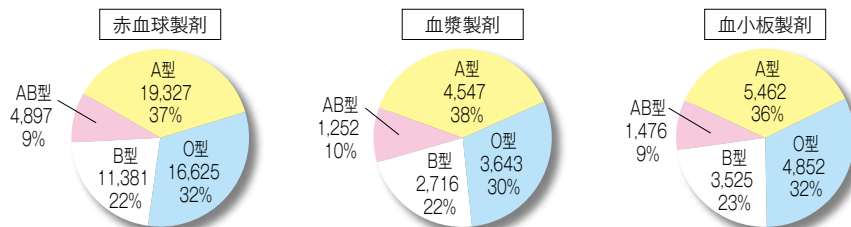
血漿製剤	販売名	略号	A型	O型	B型	AB型	合計
	新鮮凍結血漿-LR「日赤」	120	FFP-LR 120	59	68	51	28
240		FFP-LR 240	3,042	2,577	1,930	749	8,298
480		FFP-LR 480	1,446	998	735	475	3,654
	合計		4,547	3,643	2,716	1,252	12,158

*平成25年9月より、新鮮凍結血漿-LR「日赤」FFP-LR-1・FFP-LR-2・FFP-LR-Apは、FFP-LR 120・FFP-LR 240・FFP-LR 480へ変更。

(単位：本)

血小板製剤	販売名	略号	A型	O型	B型	AB型	合計
	濃厚血小板-LR「日赤」		PC-LR-1	0	0	0	0
		PC-LR-2	0	0	0	0	0
		PC-LR-5	0	0	0	0	0
		PC-LR-10	121	165	60	38	384
		PC-LR-15	3	0	1	0	4
		PC-LR-20	8	1	0	0	9
照射濃厚血小板-LR「日赤」		Ir-PC-LR-1	0	0	0	0	0
		Ir-PC-LR-2	0	0	0	0	0
		Ir-PC-LR-5	25	13	7	0	45
		Ir-PC-LR-10	4,932	4,245	3,309	1,258	13,744
	Ir-PC-LR-15	6	3	7	2	18	
	Ir-PC-LR-20	132	141	35	88	396	
濃厚血小板HLA-LR「日赤」		PC-HLA-LR-10	0	0	0	0	0
		PC-HLA-LR-15	0	0	0	0	0
		PC-HLA-LR-20	0	0	0	0	0
照射濃厚血小板HLA-LR「日赤」		Ir-PC-HLA-LR-10	192	129	65	33	419
		Ir-PC-HLA-LR-15	5	5	4	0	14
		Ir-PC-HLA-LR-20	0	0	0	0	0
照射洗浄血小板-LR「日赤」		Ir-WPC-LR	36	147	35	55	273
照射洗浄血小板HLA-LR「日赤」		Ir-WPC-HLA-LR	2	3	2	2	9
	合計		5,462	4,852	3,525	1,476	15,315

*平成28年9月より、照射洗浄血小板-LR「日赤」、照射洗浄血小板HLA-LR「日赤」供給開始

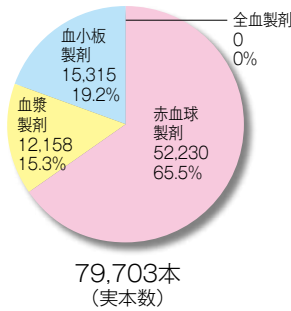


血液製剤種類別供給数(管内)

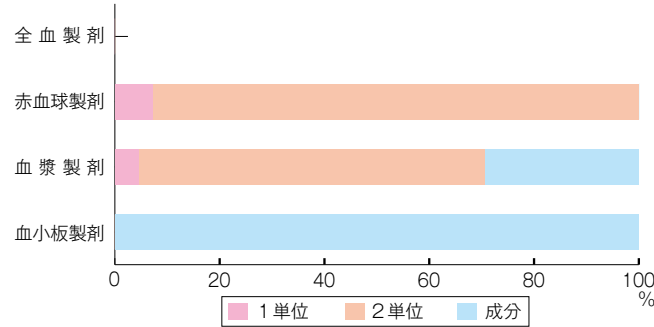
(単位：本)

	1単位製剤	2単位製剤	成分				本数合計	換算本数
			5単位	10単位	15単位	20単位		
全血製剤	0	0	0	0	0	0	0	
赤血球製剤	3,135	49,095	0	0	0	52,230	101,325	
血漿製剤	206	8,298	3,654	0	0	12,158	31,418	
血小板製剤	0	0	45	14,829	36	15,315	157,155	
合計	3,341	57,393	3,699	14,829	36	79,703	289,898	

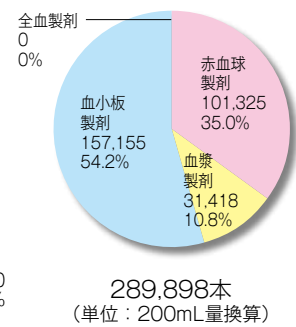
本数合計



献血由来別



換算本数

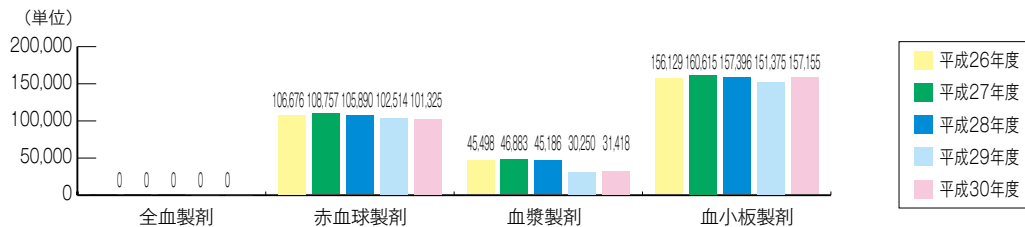


輸血用血液製剤の推移(管内)

(単位：200mL量換算)

	合計	全血製剤	赤血球製剤	血漿製剤	血小板製剤
平成26年度	308,303	0	106,676	45,498	156,129
平成27年度	316,255	0	108,757	46,883	160,615
平成28年度	308,472	0	105,890	45,186	157,396
平成29年度	284,139	0	102,514	30,250	151,375
平成30年度	289,898	0	101,325	31,418	157,155

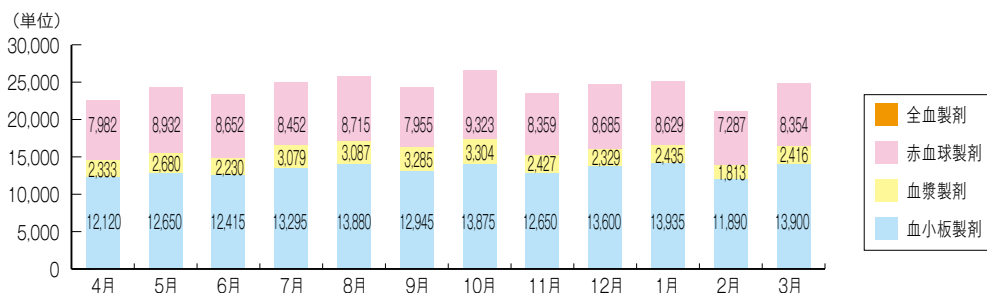
※平成29年度より血漿製剤の単位換算を変更



月別供給本数(管内)

(単位：200mL量換算)

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
全血製剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
赤血球製剤	101,325	7,982	8,932	8,652	8,452	8,715	7,955	9,323	8,359	8,685	8,629	7,287	8,354
血漿製剤	31,418	2,333	2,680	2,230	3,079	3,087	3,285	3,304	2,427	2,329	2,435	1,813	2,416
血小板製剤	157,155	12,120	12,650	12,415	13,295	13,880	12,945	13,875	12,650	13,600	13,935	11,890	13,900
合計	289,898	22,435	24,262	23,297	24,826	25,682	24,185	26,502	23,436	24,614	24,999	20,990	24,670



平成30年度 表彰 (団体のみ表記)

群馬県と日本赤十字社群馬県支部は、献血協力者への感謝とともに県民各層に対し、一層の献血思想の普及と献血運動の推進を図るため、「献血推進県民大会」を開催し献血のご功労のあった方々を表彰しております。

(敬称略)

■厚労大臣 表彰状

学校法人高崎商科大学 高崎商科大学附属高等学校
リンテック株式会社吾妻工場

■厚労大臣 感謝状

株式会社本島ビジネスセンター
株式会社スーパーセンター フィール
株式会社富士製作所
株式会社サンユー

■群馬県献血推進特別功労者 (団体)

藤田エンジニアグループ
株式会社 ホリグチ
三菱鉛筆株式会社群馬工場
山崎製パン株式会社伊勢崎工場
ライオンズクラブ国際協会333-D地区
第1R 第2Z 桐生西ライオンズクラブ
新潟原動機株式会社 太田工場
古河ロックドリル吉井工場

■群馬県献血推進協議会長感謝状

株式会社上毛新聞社
群馬テレビ株式会社
群馬県立前橋高等学校
株式会社協和 高崎第一工場
株式会社協和 高崎第二工場
群馬県立高崎東高等学校
東京農業大学第二高等学校
新島学園高等学校
社会福祉法人 恵の園

群馬県立利根実業高等学校

サンデンホールディングス株式会社 八斗島事業所
学校法人有坂中央学園 中央医療歯科専門学校太田校
医療法人相生会 わかば病院

株式会社平和 赤堀工場

ライオンズクラブ国際協会333-D地区

第1R 第2Z 館林つつじライオンズクラブ

一般社団法人 群馬県薬剤師会

株式会社ユー・エス・エス

一般社団法人 群馬県臨床検査技師会

学校法人山崎学園 東日本調理師専門学校

■日本赤十字社社業功労者社長特別表彰

株式会社SUBARU 群馬製作所
高崎健康福祉大学高崎高等学校
一般社団法人 渋川青年会議所
株式会社チノー 藤岡事業所
学校法人明照学園 樹徳高等学校

■献血団体 金色有功章

(20年以上)

学校法人昌賢学園 群馬社会福祉専門学校
医療法人社団醫光会 駒井病院
太陽誘電株式会社 八幡原工場
医療法人 中央群馬脳神経外科病院
一般社団法人 伊勢崎佐波医師会病院
太陽誘電株式会社 玉村工場
社会福祉法人 希望の家 療育センター きぼう
群馬県立太田東高等学校
医療法人社団田口会 新橋病院
ユニバーサル製缶株式会社群馬工場

**■献血団体 銀色有功章
(15年以上)**

学校法人有坂中央学園 中央情報経理専門学校
群馬県立県民健康科学大学
公立大学法人 前橋工科大学
嬭恋村農業協同組合
エスアールジータカミヤ株式会社 群馬工場
サンノーバ株式会社
学校法人 東洋大学 板倉キャンパス

**■献血団体 群馬県支部長感謝状金枠
(10年以上)**

ミネベアミツミ株式会社 松井田工場
北群馬信用金庫
群馬県立藤岡中央高等学校
利根沼田広域市町村圏振興整備組合消防本部
サンデンホールディングス株式会社 赤城事業所
株式会社富永調査事務所

**■献血団体 群馬県支部長感謝状銀枠
(5年以上)**

株式会社板通
学校法人共愛学園 共愛学園前橋国際大学

**■献血推進団体 銀色有功章
(15年以上)**

大間々ショッピングセンター さくらもーる

**■献血推進団体 群馬県支部長感謝状銀枠
(5年以上)**

株式会社ペイシア ペイシア安中店

平成30年度迄の献血記録

項 目	年 月 日	献血者数	摘 要	備 考	
開設以来延献血者数	平成31年3月末日	4,524,038人	自昭和37年11月 至平成31年3月		
開設以来母体延献血者数	平成10年8月末日	228,910人	自昭和37年11月 至平成10年8月		
開設以来献血ルーム延献血者数	平成31年3月末日	958,165人	自平成5年10月 至平成31年3月		
開設以来採血車延献血者数	平成31年3月末日	3,226,000人	自昭和37年11月 至平成31年3月		
開設以来出張延献血者数	平成31年3月末日	110,963人	自平成2年4月 至平成31年3月		
年 間 最 高 人 数	昭和60年度	131,336人			
月 間 最 高 人 数	昭和60年7月	13,420人		配車台数114台	
母 体 一 日 最 高 人 数	平成7年1月21日	168人			
献血ルーム一日最高人数	平成10年9月1日	140人	前橋ハートランド オープンニング		
出張採血一日最高人数	平成3年1月7日	230人	県 庁		
採血車一日最高人数	昭和60年11月19日	861人		配車台数5台	
採血車一台最高人数	昭和55年6月13日	311人	渋川高等学校		
市民献血一日最高人数	昭和59年2月16日	356人	桐 生 市	配車台数3台	
町民献血一日最高人数	昭和63年9月9日	175人	大 間 々 町		
官庁献血一日最高人数	平成2年1月5日	327人	県 庁	配車台数2台	
事業所献血一日最高人数	昭和60年2月27日	596人	沖電気高崎事業所	配車台数3台	
大学献血一日最高人数	昭和60年6月26日	311人	群馬大学教育学部	配車台数2台	
高校献血一日最高人数	昭和61年1月20日	546人	高崎工業高等学校	配車台数3台	
団体献血一日最高人数	昭和54年8月29日	420人	大間々ライオンズクラブ	配車台数2台	
施設別年間最高献血本数	市 民 献 血	昭和59年度	2,877人	桐 生 市	配車台数延29台
	町 民 献 血	平成4年度	941人	玉 村 町	配車台数延14台
	村 民 献 血	昭和61年度	724人	笠 懸 町	配車台数延5台
	官 庁 献 血	平成元年度	1,339人	県 庁	配車台数延9台
	事 業 所 献 血	昭和61年度	3,589人	三洋電機東京製作所	配車台数延26台
	大 学 献 血	昭和60年度	1,257人	群馬大学教育学部	配車台数延10台
	高 校 献 血	平成元年度	1,197人	樹 徳 高 校	配車台数延6台
	団 体 献 血（主催）	昭和57年度	1,774人	立正佼成会高崎教会	配車台数延16台
	団 体 献 血（協力）	平成11年度	4,202人	群馬県学生献血推進連合	献血実施場所延72箇所

あ ゆ み 令和元年 7 月

編 集 群馬県赤十字血液センター総務課
発 行 群馬県赤十字血液センター
印 刷 上毎印刷工業株式会社

群馬県赤十字血液センター 〒379-2154 前橋市天川大島町2-31-13
電 話 027-224-2118
<http://www.gunma-bc.org/>

 facebook.
はじめました!

QRコードをスキャンして
facebookページへアクセス!





日本赤十字社
Japanese Red Cross Society